

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

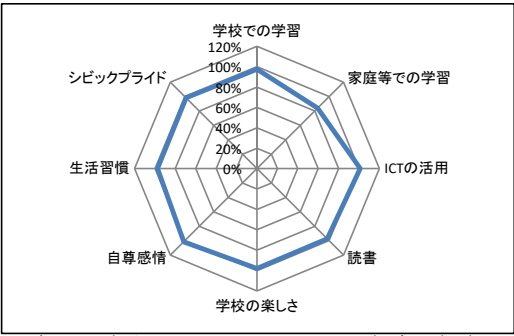
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」および「書くこと」等すべての項目において全国平均を上回っている。問題形式も、選択式、短答式問題、記述式問題の全てにおいて全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「思考・判断・表現」及び「知識・技能」のすべてが全国平均を上回っている。また、記述式、短答式における正答率が全国平均を上回っている。一方、選択式の正答率が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	素数の意味を理解しているかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	問題形式（選択式・短答式・記述式）の違いによらず、正答率が全国平均を上回っている。また、無回答の割合も全国平均よりも下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	科学的な探求を通してまとめたものを他社が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	実験における実験器具の操作に関する技能が身についているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
○ ほとんどの項目が、全国平均と同等であったが、「家庭等での学習」のみ、1時間以上学習すると回答した生徒の割合が他の項目と比較して、全国平均よりも低かった。
○ 「自尊感情」について、自分には良いところがあると回答した生徒の割合が全国平均よりも高かった。
○ 「ICTの活用」について、積極的に授業で活用していると回答した生徒の割合が全国平均よりも高かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○ 学力調査では国語科・数学・理科の全ての教科で全国平均を上回った。また、問題の形式の違いによらず正答率が高かったことから、確かな学力の定着が見られる。一方で、数学の「素数を選択する」といった基本的な問題の正答率が高くなかった等から、基本的な学習内容の復習に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 「家庭等での学習」に取り組んでいる割合が低いため、個に応じた課題やICTを活用した課題を行い、家庭等での学習を定着させる。
○ 朝食を摂る、決まった時間に起きたり寝たりする生徒の割合が全国平均よりも低いことから、学校と家庭が連携して規則正しい生活を送ることができるよう取り組む。